会報
令和７年
会報第２号
発行・編集
鹿児島県教頭会
〒892-0836
鹿児島市錦江町 2-16
鹿児島県公立小・中学校
教頭会館県教頭会事務局
Fax 099-822-5580
Tel 099-226-8268

私の勧める一冊の本

『掃除道』

著者　鍵山秀三郎
発行所　ＰＨＰ

日置市立東市来中学校
中村　宣規

教頭という職務は、学校運営の中核として学習指導から校務運営、対外的な折衝まで多岐にわたる業務を担っています。その重責ゆえに、時に職務の中で「困り感」や「行き詰まり感」を抱くことも少なくありません。過去を振り返ると私自身、学習指導、学級経営、そして校務の運営、さらには私生活に至るまで、あらゆる面でうまくいかず、毎日浮かない表情で過ごしていた時期がありました。

そんな私を見兼ねて当時の上司であった学校長が静かに薦めてくださった一冊が、鍵山秀三郎氏の『掃除道』でした。

本書は、単に掃除の技術を説くものではなく、「心を磨く」という哲理を深めることを主題としています。目の前の汚れを徹底的に落とすという行為が、自身の内面を見つめ直し、謙虚な心を育み、ひいては人格形成と周囲への影響力につながるという、実践に基づく深い洞察に満ちた内容が紹介されています。

当時の私は藁にもすがる思いで本書を読み返しました。そして、著者が実践された事例を模倣し、まずは私自身が実践することから始めました。

この実践を通じて、悩みや行き詰まりの霧が少しずつ晴れていったのを覚えています。目の前の行為に集中することで心が整い、その心の状態が、不思議と学級経営の改善や職員との連携を高めることにつながり、物事に対する新たな知見を養ってくれました。実践を始めてから一年ほど経ったころ、以前よりも充実した生活を送ることができている自分に気付かされました。

本書は、学校の抱える問題や、私たち自身の心の在り方を立て直すための確かな改善の方向性を示してくれる羅針盤となり得ます。「一掃即人生」―掃除一つにも人生が凝縮されているという著者の言葉は、教頭職の日常にも深く通じています。

ぜひ、この一冊を手に取り、日々の実践から活路を見出されることを願っております。

『学習する組織』

著者　ピーター・Ｍ・センゲ
発行所　英治出版株式会社

西之表市立榕城小学校
新村　英昭

半年前にビール工場の営業部長になった。ビール製造は、受注を受けて出荷できるようになるまで、二週間かかる。新開発のビールの売れ行きが想定外に好調で、販売店からの注文数が一か月で倍になった。初めは、工場内の倉庫に在庫があったが、製造が間に合わず、在庫を切らしてしまった。ヒット商品となったのか？販売店からは、どんどん追加の注文が入る。工場では新ビールのレーンを拡大し、雇用者も増やすことにした。三か月経ってもまだ販売店の受注数には足りず、四か月目でやっと追い付いた。これで需要と供給が安定し、この売れ行きを維持できれば、大きな収入増につながるはず。

しかしながら、その二週間後、販売店からの注文はゼロになった。一時的なものだろう。工場では増産を続けたが、ひと月経っても販売店から受注はゼロのまま。工場内のビールの在庫はどんどん膨れ上がり、倉庫に入り切れなくなった。半年が経過し、新開発のビール製造は崩壊した。急にお客の好みが変わったのか？いや、販売店では、最初からずっと同じ数量でお客に販売できていた。では、なぜ、このような現象が起こったのか？

学校という組織も同じで、「子供のために」と、一人一人の職員が一生懸命に動いても、結局は一時的な対処療法に過ぎず、根本的な解決に至っていないことがよくあります。

ビールのお話は、この本の一部の事例です。教頭として学校組織を動かすために、どのような思考をもつとよいのか、そんなことを考えさせられる一冊です。

雑感

教頭のやりがい

鹿児島市立原良小学校
福山　章

宇検村での行政職を経て、原良小学校に着任して九か月が過ぎた。多忙な校務に戸惑う日々だが、現場ならではの充実感を噛み締めている。

リフレッシュと校内巡視を兼ねた昼休み。校庭で一輪車に乗ることがある。「教頭先生、一輪車乗れるんですか。」と子供たちが駆け寄り、弾むような笑顔を見せてくれる。時にトラブルに対応することもあるが、子供たちの様々な表情を間近で見られる幸せを感じる瞬間でもある。

教頭のやりがいは、子供や先生方の力に直接なれることにある。補教で学級に入る際は、担任の許可を得て俳句や作文指導を行うこともある。また、校内に「作文コーナー」を新設し、子供の表現力を育むことを始めた。休み時間に声をかけてくれる子供が増えたことが励みとなっている。

初任者の授業参観や助言、単元構成の支援等を通じて、先生方が自信に満ちた表情へと変わっていく姿を見ることも喜びである。外国語専科とタッグを組んだCIRを招いた学習では、国際交流課との交渉や子供の意欲を高める事前動画の制作等、窓口となり汗をかいた。自信を深めた教師の晴れやかな表情や、英語で交流する子供たちの輝く瞳は、組織を支え人を活かす教頭職の醍醐味を教えてくれる。先生方への多岐にわたる支援など、組織の円滑な運営を支える黒子としての役割も、大切な使命だと感じている。

教頭として、子供たちや先生方、保護者や地域の方々に寄り添う姿勢を大切にしたい。相手の思いに傾聴し、丁寧な対応を積み重ねる。その歩みが、信頼される学校づくりに繋がると信じている。

「人」と「環境」の好循環
～笑顔あふれる学校を～

霧島市立竹子小学校
釘﨑　亮一

人が環境をつくり、環境が人をつくる。この言葉は、教職生活を通して心に留めてきた私の指針だ。学校は、そこに関わる一人ひとりの姿勢や関係性により形づくられ、その環境が子どもたちの成長に影響を与えることを、これまでの実践の中で実感してきたからである。

桜咲く季節に期待と不安の中で赴任し、新任教頭としての一年が過ぎようとしている。当初は慣れない職務や校種の違いに戸惑い、責任の重さに身の引き締まる思いであった。しかし、校長をはじめ教職員が一丸となって課題と向き合い、互いに支え合う姿に触れ、私もその一助を担いたいと強く感じることができた。この一年、私なりに誠意をもって対話を重ね、良好な環境づくりに努めてきた。その成果が、子どもたちの健やかな成長に繋がればと願うばかりだ。

教頭の役割は、学校経営方針を具現化し、教職員が安心して力を発揮できる環境を整えることにある。一人一人の声に耳を傾け、笑顔あふれる職場づくりに努めることが、子どもたちの安心感や意欲につながると信じている。また、安全を守る砦として危機管理に備えるとともに、「棒踊り」などの伝統芸能の継承を通じ、地域との絆をさらに深めていきたい。地域や保護者と連携し、子どもたちがふるさとを愛する心を育んでいくことには、大きな意義がある。

子どもたちの無限の可能性を、学校・家庭・地域が一体となって伸ばしていく。これからも「人」と「環境」の好循環を大切にしながら、一人ひとりの笑顔があふれる学校を目指して…。

随想

施設一体型『伊崎田学園』開校に向けて

志布志市立伊崎田小学校
大野　直人

令和十年四月、県立の特別支援学校が伊崎田学園内に開校することが決定している。県立の特別支援学校は、現在の伊崎田中学校の場所に建設される。それに伴い、今年度、伊崎田小学校内に伊崎田中学校の校舎を建設中である。令和八年四月、現在の伊崎田小学校内に施設一体型伊崎田小学校・伊崎田中学校（『伊崎田学園』）が開校する。そんな大きな変革期の伊崎田小学校に教頭として赴任して二年が過ぎようとしている。

令和八年四月の『伊崎田学園』開校に向けて、たくさんの準備が必要となる。校舎新設に伴う、物の移動や職員室内の配置などハード面の整備。他にも、小・中一貫校になるに当たり、教育課程編成段階から考えるべきことは多い。「校時表はどうするか。」「チャイムはどうするか。」「職員会議や職員研修の持ち方はどうするか。」「行事は、どのように持つか。」「施設一体型小・中一貫校だからこその強みを教育活動のどこに生かすか。」等々。たくさんの課題がある。

令和八年度開校に向けて、小学校と中学校の職員がしっかりとコミュニケーションを取ることを大切にしている。四月以降も予想外の課題が出てくるであろう。施設一体型小・中一貫校になったことのよさを生かし、校長の学校経営方針を具現化できるように、教頭として日々職員と語り合う努力を続けたい。「チーム伊崎田学園」の力を結集させ、『伊崎田学園』だからこそできる心温まる質の高い教育の実践と校区の魅力発信を教頭として今後も続けていきたい。

アップデート

鹿児島市立星峯中学校
是枝　太士

十二月のある週末、自宅でラグビーのテレビ中継を流しながら愛犬と戯れていた。するとテレビから「ノックフォワード」と聞こえてきた。「ん？ノックフォワード？」それは、以前「ノックオン」と呼ばれていたボールを前に落とす反則のことだった。

私は高校入学後、テレビドラマ「スクールウォーズ」の影響を受けてラグビーを始めた。高校卒業後も数年間クラブチームでプレーした。高校生の頃はトライを決めると四点だったが、私が教員になる頃には五点に変更されていた。当時もルールの変更はいろいろとあった。

どの競技でも同じだが、ルールは少しずつアップデートされていく。その競技をより面白くしたり、分かりやすくしたり、また安全を確保するために、アップデートは必要なことである。

冒頭の「ノックフォワード」は、調べてみたら二〇二五年の一月から適用されているらしい。私は、そのことをほぼ一年間知らずにいたということである。

私たちの業務も、世の中の状況に合わせて変化し続けている。業務改善、教育DX、学習指導要領改訂に向けての動向など、教員として、また教頭として理解しておかなければならないことが、どんどんアップデートされている。教育委員会から送られてくる膨大な量の公文を処理しながら、きちんと読み込まないといけないなと反省する。

「教頭先生、これはどういうことですか。」と尋ねられた時に「これはね…」と答えられるよう、常に情報をアップデートしていきたい。

随筆

偽りない真心

出水市立米ノ津東小学校
大河原　徹也

年末の風物詩「今年の漢字」令和七年は「熊」だった。その報を聞いて思い出すのは「偽」が選ばれた平成十九年。その年に彼と出会った。「研究推進校」と呼ばれる学校にあって、与えられたことをこなすだけで精一杯だった私。だが彼は違った。常に「意味」を問い、子供の未来を見据えているその姿に、子供も学校も変わっていった。私も変わっていけたと感謝する。

互いの職場が変わっても、彼とのやり取りは続いた。仕事や家族のこと、そして悩みや弱さを分かち合えることが、私の誇りだった。病のことも辛さも、彼は伝えてくれた。私は変わらず他愛もない内容を送った。それが彼の安らぎ、彼の「為」になると信じて。

十二月十七日早朝、彼からの深夜の音声メッセージに気付く。再生すると絞り出す声で「返事をしなければと考えてしまう。」「家族のために時間を使いたい。」と語り、最後に「ありがとう」と。胸が痛んだ。気を遣わせていたと自分を責めた。出勤後、机上の携帯が鳴る。表示は彼の名前。飛びつくように取った電話の向こうで、彼は何度も伝えてくれた。「いつも連絡いただき感謝しています。ありがとう。」その声に、言葉に救われていたのは私の方だ。別れのこの電話も。最後まで相手を愛する偽りなき真心。これからも君の真心と共に生きていくよ。目指す姿として。「こちらこそありがとう。」

自由投稿

風に向かって立つ

指宿市立丹波小学校
榎本　明彦

教頭という立場になり、職員にとってどのような存在でありたいかを考えるようになった。私が目指すのは、困ったときにそっと寄り添い、様々な場面で支えとなる「ドラえもん」のような存在である。

学校現場には、学級経営に悩む若手教員や保護者対応に不安を抱える職員、業務の負担感に苦しむ職員など、多様な課題が存在する。教頭として心がけているのは、すぐに答えを示すことではなく、まず丁寧に話を聴き、状況や背景を整理することである。その上で対応の選択肢を示し、必要に応じて校内の体制や役割分担を調整している。

生まれ育った種子島には「よか馬は風に向かって立つ」ということわざがある。困難から逃げず、正面から向き合う姿勢の大切さを示す言葉である。学校や職員が直面する課題という「風」に対し、共に向き合い、支え続けることが教頭の役割だと考えている。それは、ドラえもんの道具のように万能な解決策ではないが、職員が再び前を向くきっかけになるはずである。こうした支えが、結果的には校長を助け、学校運営を補佐することにつながると考えている。

これからも職員のそばで、風に向かって立つ存在でありたい。